

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (教育学)	氏名 Author	飛田 麻也香
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	イスラエルにおける共生社会実現に向けた NGO 諸団体の教育活動—ユダヤ人とパレスチナ・アラブ人の接触・非接触に着目して—		
論文審査担当者 Dissertation Committee Members	主 査 Committee Chair 准教授 牧 貴愛 印 Seal 審査委員 Committee Member 教授 片柳 真理 審査委員 Committee Member 教授 関 恒樹 審査委員 Committee Member 教授 大塚 豊 (福山大学大学教育センター) 審査委員 Committee Member 教授 三尾 真琴 (帝京科学大学総合教育センター)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review	<p>本論文は、イスラエル国内でユダヤ人とパレスチナ・アラブ人の共生社会の実現をめざした教育活動が、NGO によっていかに推進されてきたか、また、そこにはどのような意義と課題があるかを明らかにしたものである。</p> <p>序論では、研究の着想、研究目的と研究方法、先行研究の検討、具体的研究課題、論文構成を論じている。第 1 章では、共生社会の実現をめぐるイスラエルの教育政策について、共存、共生社会、パートナーシップという中心理念の変遷を整理するとともに、教育関係法規やカリキュラムの分析から学校教育における共生社会の位置づけを明らかにしている。第 2 章では、共生社会の実現をめざして教育活動を行う NGO の設立年、活動内容や対象者を整理した上で、双方の接触、非接触、両者間で議論が紛糾する内容の取り扱いの有無といった観点から、35 の NGO を接触・交流型 (類型 A)、接触・対話型 (類型 B)、非接触型 (類型 C) に類型化し、それぞれの特質を論じている。第 3 章、第 4 章、第 5 章では、類型毎に 2 団体、計 6 団体の NGO について、活動理念、教育活動の具体やその成果と課題などを論じている。第 6 章では、共生社会の定義を用いて職員や使用言語、活動場所にみられる対称性などの横断的比較分析を行い、各類型の教育活動の意義と課題を論じている。結論では、各章を踏まえて共生社会のための教育の課題と展望を論じている。</p> <p>本論文は、以下の点で新規性、学術的意義を有する。まず、共生社会の実現をめざすイスラエルの NGO による教育活動の意義と課題について、政策文書や報告書等の分析と、著者自らが現地で実施した聞き取り調査を組み合わせ多面的に分析していること。次に、類型化を用い、従来の接触型の事例研究に非接触型の事例を加えることで、NGO の教育活動の意義と課題について、よりホリスティックな分析結果を提示していること、である。なお、本論文の一部は、査読付論文 2 篇、学術書の分担執筆 1 篇として公表済みである。</p> <p>以上、審査の結果、本審査委員会委員は、本論文が著者に博士 (教育学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>		